

農地中間管理事業と基盤整備事業を活用して、企業が立ち上げた農業

ふじみまち おおだいら

法人へ農地集積を図り、農地を有効活用(長野県富士見町大平地区)

法人化

基盤
整備
の活用

機構
の活用

地域の概要

耕地面積22.5ha、農家数32戸、農家の平均年齢69歳、水稻中心の個別経営が多く、耕作者が年々高齢化し、一部の農地において遊休化が始まっている。中間農業地域。

取組の成果

○担い手への集積率

基盤整備実施地区:0%[取組前(H24)]→87%[取組後(H28)](地区全体の集積率47%)

○農地中間管理事業と基盤整備事業を活用し、再整備した農地を企業が設立した農業法人へ集積し、加工野菜を生産

長野県富士見町



<人・農地プラン基礎データ>

作成予定地域数:1

作成済地域数:1

27年度見直し地域数:1

取組のポイント

企業が新たに農業法人を立上げ農地を集積

高齢化により一部の農地の遊休化が始まっている当該地域の有効活用を図るべく、機構を活用した人・農地プランについて話し合いを重ねた。

話し合いの結果、農地を支える担い手として、**地区内に工場を持つ加工食品企業が農業法人を立ち上げることとなり、農地を再整備し、利用価値、資産価値を高めた上で、当該農業法人に集積することを決定**した。

当該農業法人は、地域の雇用創出にも貢献している。

農地の貸借期間調整

貸借期間について農地の出し手ごとに意見が異なり、調整作業に手間取ったが、**農地返却時の復旧図と確約書を作成し、見える化を図るという手法を採ることによって、最終的には10年～30年の幅で個別に貸借期間を設定し、話し合いがまとまった。**

また、話し合いを重ねることで、新たな企業経営体の信用度が高まり、営農計画の精度も高まった。



本事業により生産を予定している
トマトの養液栽培